

第 1152 回放送分『甲状腺疾患』5 回目

ゲスト：中条哲浩ドクター

二見いすず

今月のドクタートークは、「甲状腺疾患」についてお送りしています。

お話は、鹿児島大学乳腺甲状腺外科 中条哲浩（なかじょう あきひろ）ドクターです。

中条さん、最終週もよろしくお願いいたします。

中条哲浩Dr.

よろしくお願いいたします。

二見いすず

先週は甲状腺がんの放射線治療についてお話いただきました。

放射性ヨウ素のカプセルを飲む、体の内側からの放射線治療で、

転移の治療だけでなく、進行がんの手術の後に予防的に行う治療ということでした。

ヨウ素を取り込めるのは、体の中では甲状腺だけなので、

この性質を応用した、非常に理にかなった治療で、効果もあると伺いました。

今日は何についてお話しいただけますか。

中条哲浩Dr.

今日は抗がん剤治療についてお伝えします。

二見いすず

手術をして、予防的に放射線治療をするということでしたが、

抗がん剤治療はどのタイミングで行う治療なのでしょうか？

中条哲浩Dr.

手術、そして放射線治療までは必ず行うのですが、残念ながら

中にはこれでは効かないケースもあります。その際に行うのが、抗がん剤治療です。

これまでは、多標的分子標的薬といって、

さまざまな腫瘍に効く飲み薬の抗がん剤があり、実際、これがよく効いていました。

二見いすず

そうなんですね。

中条哲浩Dr.

さらに最近は特定の遺伝子の変異を検出できる検査ができるようになり、さらにそれをブロックする薬ができてきました。

BRAF 遺伝子、RET 遺伝子、NTRK 遺伝子など、

特定の遺伝子変異が原因で発生する癌があるということが分かってきて、BRAF 阻害薬や RET 阻害薬、NTRK 阻害薬というのがでてきたんです。

二見いすず

これは最近でてきた治療薬なんですね？

中条哲浩Dr.

はい。BRAF 阻害薬などは去年保険適応になったので、本当にここ最近の話です。

これによって、進行が早く予後が悪かった未分化がんも

期待がもてるようになってきています。

二見いすず

3週目にお伝えした未分化がんですね。

甲状腺のがんのほとんどは進行が遅く、他のがんと比べても

治療後の経過が良いということでしたが、

この未分化がんに関しては、進行がとても早いということでしたよね。

中条哲浩Dr.

はい、そうです。

二見いすず

その未分化がんに対して、効果が期待できるようになったというのは患者さんにとってはうれしいニュースですね。

中条哲浩Dr.

そのとおりだと思います。

二見いすず

さて、今月は甲状腺の疾患についてお送りしてまいりましたが、

甲状腺の検診は毎年必ずしも行う必要もないということで、

甲状腺について普段それほど意識することがない方もいらっしゃると思います。

しかし、甲状腺は体の代謝に関わるホルモンを出してくれる、

大切な役割をしていることが分かりました。

もし普段と違う体の症状があったり、首にしこりなどを見つけれたら、

早めに受診するようになさってください。

お話は、鹿児島大学乳腺甲状腺外科 中条哲浩ドクターでした。

5週にわたり貴重なお話、ありがとうございました。

中条哲浩Dr.

ありがとうございました。